



# 飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida

## ロータリーは機会の扉を開く

RI会長 ホルガー・クナーク

2570地区ガバナー 相原茂吉

第3グループ  
ガバナー補佐 西澤長次

Let's make fellows! 友達をつくろう

### 第2932例会 2020.10.28

—— 地域社会の経済発展/米山月間 ——

天候 曇 (NO. 57-18)

会長 田辺 實 幹事 森 健二

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 島田君、杉田君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)973-1661 FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 田辺会長
- ・ソング 手に手つないで 四つのテスト
- ・卓話 山口孝会員 中川律子会員

#### ◎新会員の名刺交換

#### 【会長報告】

25日、秋晴れの下、親睦活動委員会のご協力でゴルフ大会、親睦会を開催しました(飯能グリーンCC 32名参加)。23日、中里(昌)バスト会長が編集されたソルトレイク国際大会2007のビデオ鑑賞会。RIの素晴らしさを皆さんにご理解頂ける良い機会だと思いました。コロナ禍での例会運営として「自己管理で感染予防」をスローガンに掲げました。配付資料もご覧下さい。ご配慮の上、ご出席下さいますようお願い致します。皆様のご協力のお蔭で11月からは予定通りの例会が行われるものと思っております。

「人間という奇跡を生きる(2)自分で6つの精進をする」京セラ創業者の稲森氏は、心を高め磨くため、釈迦の話を基に自分で「6つの精進」を掲げた。氏は65歳で臨済宗妙心寺派円福寺にて得度。1) 誰にも負けない努力をする。京都で一番になろうとやっていた当時帰りに隣の工場の電気がまだついているのを見て、「明日からはあの会社より遅くまでやり、早く来よう」と思った。不平不満があったら1cmでも前に進み、向上するように努める。2) 謙虚にして奢らず。人は慢心した時にひっくり返される。調子が良くなってもいつも謙虚で奢らない事を自らに課す。3) 反省ある日々を送る。「自分のあり方はこれで良いのか」と日々思う。4) 生きている事を感謝。5) 善行、利他行を積む。6) 感情的な悩み方をしない。いつまでもよくよしない。全身全霊で仕事に打ち込めば感情的な悩みは消えてしまう。自分の心を磨くため、人生を高めるため、人格を高めるため、これら6つを掲げ、毎日実践すればいいのである。それが運命を招来し人生を切り開く事になる。経営のカリスマの成功の礎となった6つの精進、人生哲学である。

#### 【幹事報告】

馬場会員に作って頂いたアクリル板のお支払いが

完了。「飯能市国際交流協会」の内部委員会「飯能市フィンランド協会」(和泉会長)講演会11/28於メッツァ。30日申込締切。次週より「3分間スピーチ」再開。

◎島田会員よりご会葬の御礼

#### 【委員会報告】

◎親睦活動委員会

都築君

親睦ゴルフコンペ第3位・土屋(崇)会員、第2位・藤原会員、優勝・大崎会員でした。おめでとうございます。(賞品贈呈)

◎大崎会員

立場上、「これでいいのか」という戸惑いがありますが、これは素直に頂きます。絶好の天気、



同伴に田辺会長。次回は18ホールです。またよろしくお願ひします。有難うございました。

【出席報告】無届欠席0

鳥居出席向上委員

会員数		当日		前々回修正 出席率
全数	対象	出席数	出席率	
69名	6名	66名	95.65%	定款による休会の為 修正はありません

【M U】

10/26(地区)和泉君

#### 【SAA報告】

◎ニコニコBOX

- ・中里(昌)バスト会長、国際大会ビデオ鑑賞会有難うございました。素晴らしい旅行だった事を再確認しました。また、親睦ゴルフ大会ご参加有難うございました。親睦活動委員会の皆様、有難うございました。田辺君
- ・先日のRCゴルフ大会、大勢の強豪がいる中で「二

アピン賞」を頂きました。今後のゴルフ人生に自信がもてました。中里(昌)君  
 ・母の葬儀にお世話になりました。島田君  
 ・大学2年砲丸娘、日本グランプリ北九州大会15m09、優勝しました。大野(康)君  
 ・女房共々誕生日祝い有難うございます。町田君  
 ・親睦ゴルフ大会ではお世話になりました。天候、パートナー、ハンディに恵まれ3位に入賞しました。土屋(崇)君  
 本日計25,000円、累計額432,000円。  
 ◎11日例会当番は沢辺、坂本(渾)会員です。

## 【卓 話】

講師紹介 伊澤プログラム委員長  
 税理士法人アスタクス副所長・公認会計士：山口孝会員、(有)あきたベターライフ代表取締役：中川律子会員です。よろしくお願ひ致します。

## イニシエーション・スピーチ

飯能RC 山口 孝会員 中川律子会員



**山口会員** 飯能で生まれて、小学校は富士見小でしたが、中学からは6年間、川越の秀明学園に通い、月曜から金曜まで寮生活。当時は規則が厳しく、マンガ、テレビ、ウォークマン等、学業に支障をきたすものは全て“禁制品”というヘビーな青春時代でした。

部活は小学校からやっていた野球部に入りました。秀明高校は中1の時には甲子園に出るような強豪校だったのですが、特待生を取らなくなってからは弱くなりました。それでも全寮制という事で練習時間だけはたっぷりあり、弱いのには練習時間だけは多いという、ある意味一番キツイ状況でした。慶應義塾大学に進学したのですが、6年間の“監禁生活”の反動で、褒められるような学生生活を送る事が出来なかったのは今でも反省しています。父が税理士をしており、「資格の勉強をする」と言うといろいろ許してくれる部分もあったので、それに甘えて卒業後もふらふらした時間がありました。

その後、一念発起して27歳で公認会計士の試験に合格、西新宿にある「三優監査法人」に就職しました。監査法人の仕事というのは税務やコンサルティングもあるのですが、メインは上場企業の監査で、これは監査法人にしか許されていない独占業務です。上場企業は四半期に一度決算報告をしなければならず、その中身をチェックして監査報告書を企業に出したところで初めて企業は株式市場に決算報告を出す事が出来る、という流れです。トヨタ等のビッグクライアントは「BIG4」と呼ばれるクラスの監査法人が担当するのですが、そこまで規模の大きくない「大戸屋」「USEN」「ブルドックソース」「なとり」等の企業を担当していました。ここに8年程勤めました。公認会計士は3年間の実務の後に修了試験を受けて本資格になるのですが、公認会計士を取ると現在は税理士は無試験で通れるのです。30歳過ぎには公認会計士になっていた私に対して、父からは「そろそろ飯能に戻れ」という無言のプレッシャーがずっとありました。けれども東京という楽しい街ですし、独身という気楽さもあって、ずるずる返事を伸ばして、ようやく35歳で飯能に戻って参りました。まだ5年程しか経っておりません。

飯能で初めて税理士の資格を取って仕事をしているのですが、直接お客様と対面して行う仕事にはやりがいを感じ、私には合っているのかなと思っています。税理士という仕事を通じて、また、ロータリーの活動を通じて、この地域に少しでも貢献出来るように頑張りたいと思いますので、今後共よろしくお願ひ致します。



**中川会員** 秋田市出身。S32年生まれ。長男は独立し、長女は仕事を手伝ってくれています。35歳からカイロプラクティック(以下CHIRO)の仕事を始めました。その頃私には不整脈や腰痛があったのですが、骨のゆがみを元に戻すための運動や生活習慣等の改善をしていく中で体が変わっていきました。CHIROは奥が深く学ぶ程に患者さんの苦しい症状を改善して喜んで頂ける事が嬉しくて、どんどんハマっていき、趣味も楽しい事も好きな事も仕事、というような生活が52歳位まで続きました。52の時、父が他界。両親が居なくなっからは人生観も生き方もずいぶん変わったように思います。あの世からの母の声に導かれるように「倫理法人会」に入会。学んでいくうち、世の中は人と人の繋がりで成り立っており、自分をいくら磨いても人との繋がりが無くしてそれを活かす事は出来ないと感じました。また、コロナ禍で、自分には何が大切で、何がしたいのかを考えさせられました。仕事中心でプライベートな人間関係を大事にして来なかったという事に気づいた時、心を開いて語り合い、行動を共に出来る仲間、価値観を共有出来る仲間をつくりたいという気持ちが強くなりました。これが正にRCの目標と同じでした。倫理法人会で「人のよきこび わがよきこび」との学びを実践し、間税会で、助け合いと思ひやりでより良い現実が実現していく事を広い視野から見る事が出来るようになり、今は、人生において良い縁に勝る財産は無いと感じています。

2人目の子どもの里帰り出産で秋田に帰った時、パッチワークをしていた私に、「そんな事をしている暇があったらCHIROの勉強をしてみないか」と母が声を掛けてくれたのが仕事のきっかけです。

父は美術教師で彫刻家、母は秋田大学家庭科研究室に勤務していたのですが、定年前から東京にCHIROの勉強に行き、退職後、自宅に施術院を開業しました。私が中学生の頃、母は車の助手席に座っていて急ブレーキを踏まれてから具合が悪くなり、頭痛、めまい、吐き気、息苦しさから毎日どんぶり一杯の薬を飲み、入退院を繰り返していました。1年程して「同じような症状の人がCHIROの治療で良くなったらしい」と知人から聞いて、施術院に通うようになると母はみるみる回復していったのです。

ストレスや生活習慣から「骨のゆがみ」が溜まっていくという事は、疲れや老化として認識、自覚されています。これは、骨のゆがみによって神経の流れが悪くなっている状態です。ゆがみを正して神経の流れを回復し、自己治癒力で元気になれるのがCHIROの施術です。米国等では国家資格なのですが、日本では整体や民間療法の一つのような状態です。

皆さんは自分の体に対してどのような意識をもっているのでしょうか。「具合が悪くなった病院に行けばいい」という考えで本当に大丈夫でしょうか。私の仕事は、CHIROの「骨のゆがみを治す」という考えを基盤に、神経の流れの良い状態を回復し、体全体の筋肉のバランスを正して、血流、リンパ、気の流れを良くしていくものです。それによって本来の自己治癒力、回復力、免疫力が上がる。安全性と効果の高い治療法、予防法です。部分的な、関節にこだわった施術だけでなく、体全体の筋肉の繋がりを診て全身を整えていく施術に深化してからは、いろいろな症状の治癒率、改善率が上がりました。

私の使命は、健康意識、健康水準を上げていく事だと思っています。平均寿命が延びても健康寿命が10年も短いという現実を変え、寿命を全う出来る人を増やしたい。そのためには個人個人が自分の体を知り、自分の体を自分で守れるようになっていく事が大切です。病気になる前の、予防としての体のメンテナンスとして、私の所の施術は最適なものだと自負しております。どうぞ東飯能駅前の「ベターライフ健やか」へお越し下さい。